

会 議 要 録

会 議 名		令和5年度 第3回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和6年2月6日（火）午後1時30分～午後3時00分
場 所		小平市役所5階 505会議室
出席者等	委 員	13名（欠席者4名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		1名
会議内容	1 開会 2 議 事 意見交換「子ども・若者から意見を聴くための方法について」 3 情報提供 4 その他 5 閉 会	
配付資料	会議次第・席次表 ひらく - 未来をひらく、心をひらく - ひまわり 第44号（令和5年度）「社会を明るくする運動」作文集 令和5年度版 こだいら子育てガイド	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

2 議事

意見交換「子ども・若者から意見を聴くための方法について」

事務局	<p>令和5年4月1日にこども基本法が施行され、国や地方公共団体は、子ども施策の策定・実施・評価にあたり、子ども・若者や子育て当事者等の意見を反映させるための措置を講ずるもの、とされている。</p> <p>令和4年度に内閣官房が実施した「こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する検討委員会」においては、さまざまな議論が交わされ、同委員会の調査研究報告書がまとめられた。その中で、子ども・若者の意見を聴き、政策へ反映し、その結果をフィードバックするというサイクルを構築することが大切であり、また、その各プロセスにおいても、子ども・若者が意見を表明できるように配慮し、その意見は正当に考慮され、子ども・若者の最善の利益を実現する観点で反映を判断し、結果としてどのように反映された、あるいは反映されなかった理由を子ども・若者に分かりやすく伝えることが重要であるということが示された。</p> <p>一方で、どのような子ども・若者を対象に、どのように意見を聴き政策に反映させるのかは、当該施策の目的や内容によって判断されるため、統一的な答えがあるものではない。この意見交換では、結論や方向性を出していただくものではなく、これまでの協議会で行っている情報交換の拡大・延長と捉えていただき、普段考えていることや思いついたことを自由に述べてもらいたい。</p>
-----	--

副会長	若者の年齢は何歳までとしているのか。
事務局	小平市子ども・若者計画においては、29歳までとしている。
委員	<p>青少年がどのような状況であれば意見を言いやすいか、高校生の娘に聞いてみた。娘は小平第十四小学校の卒業生であり、今でも親しい先生に定期的に会いに行き、人間関係のことなど、親には言いづらいような内容について相談をしている。昔から自分を知ってくれている関係性だからこそ相談しやすく、また、先生の表情から自分の言いたいことが伝わっていることがわかる安心感もある。そして、先生も一度話を聞いて受け入れてから、必要なことを諭してくれるので、素直に話せると言っていた。</p> <p>そういった場所も、青少年の話が聞ける方法の一つだと思った。</p>
委員	<p>子どもに意見を求める際に、子ども自身が、聞かれていることを自分事としてしっかりと捉えられるかどうか的大事である。最近の子どもの情報源はスマートフォンであり、自分で情報を選択できるので、興味があるものばかりを見て、興味がないものは見ないため情報が入ってこない。そのため、興味がないことに対して意見を聞かれても、それを自分事として捉えられず、薄い意見しか出ない。</p> <p>子どもに意見を聴きたいのであれば、情報を共有して興味を持たせ、うまく意見を引き出すような方法がとれば良いと思う。</p>
委員	いつ、どこで、誰が意見を聴くのかという部分を考えないといけないと思う。小・中学生は学校という場で意見を聴くことはできると思うが、29歳までの若者に対して意見を聴く場や方法を考えるのは難しいと感じた。
委員	大学では相談できる身近な大人がいないので、相談事は親や友達に話すようになる。友達の中には親との関係が悪くて話せない人もいるので、相談したいときに誰に相談できるのかなど、若者の立場からもよくわからない。
会長	大学生の立場から、大学に対して意見を言う場はあるのか。
委員	学生へ向けたアンケートへの回答など、大学に対して意見を言う場はあるが、先生が促さないと回答しない学生が多いため、大学側としても学生の意見を吸い上げるのは難しいと思う。
委員	<p>大学の同級生から聞いた話だが、精神的な部分に悩みがあり、大学の窓口で相談をしたのだが、話を聞いてもらえなかったようである。</p> <p>親や友達との関係性があるから相談しづらいのであれば、お互いが匿名であれば話しやすいのではないかと思います。意見を言うのも同じで、匿名で意見を言えるような仕組みがあると言いやすいのではないかと思います。</p>
会長	対面あるいは匿名でという、異なる角度からの意見が出ているが、どんな内容であれば、若者として意見を言おうと思えるか。
委員	意見を言っても、その意見に対しての反応がなかったり、あるいは意見を否定されたりすると言いつらくなるため、そうならないことが保障されていれば言いやすいと思う。
委員	周りに信頼できる大人がいる子どもは、悩みがあってもそういった大人に相談することができるが、人との関係性を築くこと自体に課題がある子どもは、こちらから相談先を紹介したとしても自分から相談しようとしないうため、相談に繋げることは難しいと感じている。

	<p>経験上、そういった子どもも、食べることを通じて心が落ち着き、少しずつ心を開いて話をしてくれる気がする。四角四面な場所で対座して相談するというよりは、食事ができて落ち着ける場所で相談できる方が良いのではないかと思った。</p>
委員	<p>児童養護施設の子どもたちは、施設に来るまでに虐待などのマイナスの体験を経てきている。そういった子どもたちは、意見を言っても何も変わらないので仕方がないし、否定されるので意味がないという意識があるため、いきなり意見を聴かせてと言っても難しいと思う。</p> <p>施設の子どもたちも含め、日本の若者は全般的に、自己肯定感が低く、前向きになれない傾向があると言われている。まずはそういった若者自身の現状を受け止めてあげることから始め、話しても良いのだという安心感を与えてあげることが大切である。その方法は食事でも良いし、ゲームなどでも良いと思う。</p> <p>若者が集まるという視点で言えば、トー横キッズのようにたくさんの若者が集まる場所がある。その理由は、悪いことに巻き込まれるリスクがあっても、そこに行けば話し相手がいるからというのが大きいと思う。本来はそれぞれの地域で、若者が集まれる場所を作れば良いのだろうと感じた。</p>
副会長	<p>少し本論から反れるが、近所のコミュニティスクールに認定されている中学校で青少対の活動を行っており、話合いの中で大人の居場所があると良いという意見があった。月に1回程度場所を設け、お茶とお茶菓子を用意して開催している。広報についてはチラシを作り、学校行事として周知しており、現在は毎回10名程度の方が参加している。参加するのはほとんど児童の母親である。</p> <p>そこには校長も出席しており、校長が、出席した母親が学校へ聞きたいことは子どもの学業面のことではなく、生活面での悩みに関することが非常に多いと聞いた。また、学校側としては、子どもの情報を母親から得ることができるし、母親同士も、共通の悩みを通じて他の母親と共感できることで悩みも軽くなるようである。</p>
会長	<p>開催頻度や出席者数、どういった方が参加されているのか。PTAの役員など、既に学校の活動に参加されている方が多く出席されているのか。</p>
副会長	<p>1年で12回程度開催し、出席者は増えている。途中で帰る人はいないので、居心地は良いのだろうと感じる。参加する保護者は、学校の活動に参加してる方に限らず、いろいろな方が来てくれている。</p>
委員	<p>私も大人の居場所の活動に携わっている。初めは出席者がいなかったが、来年その中学校に入学する児童の保護者たちが興味を持って来てくれたり、部活動に興味があるので参加したいという保護者がいれば部活動の先生に参加してもらったりと試行錯誤を重ね、また、参加してくれた保護者が、参加して良かったということを広めてくれて、少しずつ出席者が増えてきた。</p> <p>他にも、子育て広場に携わっており、来所した親子と接する機会がある。まずは世間話をして関係ができてくると、実は相談したいことがあると悩みを話してくれる親もいる。その際は相談できる職員へ丁寧に繋いでいる。若者ということではないが、あそこに行けば話を聞いてくれる人がいるという場所があれば、話をしたい方は集まるのではないか。</p>
委員	<p>警察としては、相談したい人からの相談や、取調べとして話を聞くというのは仕事の一つであるが、特に取調べにおいては、相手との信頼関係がないと本当のことを話してくれない。信頼関係を築くために話し合う回数を重ねていくこともある。</p>

委員	<p>中学一年生の息子に今日のテーマについて聞いてみたところ、自分が好きなことをしているときに意見を言いやすいと言っていた。また、高校一年生の息子と車で外出した際に、息子が好きな音楽を流していたところ、雰囲気は安心したからか、言いづらいことを打ち明けてくれたことがあった。おそらく言いやすい状況だったのと、受け入れてくれるだろうという信頼関係があって言ってくれたんだと思う。意見を言いやすい環境と、意見を否定せず受け入れる信頼関係は大切だと思う。</p> <p>立川にNPO法人育て上げネットがあり、「寝ながらできるはたらく相談」という取組を行っている。若者が使いやすいスマートフォンをツールとして使って、しかも寝ながら相談できるというもので、入口のハードルを低くしてまずは繋がり、そこから必要な相談機関に繋げていけるという仕組みは良いと思った。</p>
会長	<p>子ども・若者から意見を聴くことに関して、これまで各委員から、意見を聴くための環境づくりや聞き手との信頼関係、あるいは求められた意見を自分事として捉えられること、出した意見に意味があったと思えることなど、さまざまなお話をいただいた。ここまでは共通理解ができたと思う。</p> <p>では、市の施策に対して子ども・若者から意見を聴く方法としては、どんなことが考えられるか。</p>
委員	<p>中学校では、子どもたちからの意見を聴くことにあまり苦労しないが、子どもたちにとって自分の意見を否定されない心理的安全性があると、より意見を言うようになる。学校では今、主体的に学ぶ授業をしているので、子どもが発言する場がとても多いが、その中でも意見が多く出るクラスとあまり出ないクラスがあり、その差は心理的安全性にあると言える。今の子どもたちは、周りからどのように見られているかをとても意識しているが、心理的安全性が得られていることで、全校生徒の前でも発言できる子どもたくさんいる。</p> <p>ただ、自分が安心できる環境から外れると、心理的安全性が保てず、意見を言えなくなってしまうため、子ども・若者から意見を聴くためには、どうやって心理的安全性を担保するかというところが重要であると思う。</p> <p>来年度からうちの中学校もコミュニティスクールになるため、地域の方や保護者に対して、どのような学校づくりをしていくべきかアンケートをとったのだが、地域の方や保護者が一番に選ぶのは、「友達と仲良く過ごし、豊かな人間関係を育む学校」であった。一方で、同じアンケートを生徒たちにとった結果、一番多かったのは、「子どもたちの意見を尊重する学校」だった。それだけ今の子どもたちは、自分たちの意見を尊重して欲しいと思っているので、意見を聴くための環境を整えて、興味を持たせるためのアプローチをしてあげれば、意見を言ってくれるのだと思う。</p>
委員	<p>日本人は内気で、自分のことをあまり話さないという印象があったので、今の子どもたちは自分の意見が言えるという話が聞けて素晴らしいと感じた。</p> <p>ボーイスカウトの活動に携わっていたことがあるが、所属している子どもたちはいろいろな学校から集まってきているので、そこに新たなコミュニティができて、一緒に活動していく中で仲間意識ができて、参加者同士で仲良くなって心理的安全性が担保されて、いろいろな話をするようになる。学校での意見収集では拾えない範囲は学校以外のコミュニティで意見収集すると良いのではないかと思った。</p>
会長	<p>子どもたちが所属できる、学校以外のコミュニティはどんなものがあるのか。</p>

委員	例えば市の青少年リーダー養成講座や、少年野球などのスポーツチームなどいろいろあるが、その中でも広範囲にわたるコミュニティでは多様性が出やすいと思う。
委員	父が地域で将棋教室を開いており、そこに参加する理由もさまざまである。趣味で将棋をやりたい人や、発達障害の疑いがある子どもに習わせたいという親が連れてきたこともあった。趣味や習い事などのコミュニティもあると思う。
委員	民間のスポーツのクラブチームなどのコミュニティもあると思う。参加者の年齢層は、若者から年配の方までと幅があって、同じスポーツを通じて話す中で仲良くなっていき、一緒に活動する楽しさを感じるようになる。
委員	<p>コミュニティに参加できる人は、そのコミュニティで意見を聴くことができるので、コミュニティに参加できない人の意見を聴くことが課題なのかなと感じた。匿名性が高くて、意見を収集できるツールとしてはLINEだと思うので、LINEを使えば、コミュニティに参加できない人からも意見を収集することはできる。</p> <p>ただ、そういった匿名で意見を収集することについて、それで良いのかとも感じている。名前を出さない子ども・若者の意見を聴いて施策に反映させるというのは、あるべき姿なのかが疑問として残る。</p> <p>市の施策に対して子ども・若者が意見を言ったとして、具体的にそれを反映させられる施策はあるのか。</p>
委員	話が3点出たので順に確認していければと思うが、まずはコミュニティに参加していない人から意見を収集する方法として、LINE以外に何かあるか。
委員	<p>学校評価アンケートについては、Googleフォームやスクールメールなどのツールを活用して、オンライン上で回答できるようになった。手頃ではあるが、回答率が高くなったかははっきりしない。</p> <p>以前に市のこれからのまちづくり（第四次長期総合計画）について、出前授業をしてもらったことがあった。その際に子どもたちから意見を聴いていたが、子どもたちからの反応もあり、とても活発な授業だった印象がある。アンケートをメールで送るよりは、授業を通じて子どもたちが自分の考えを持てたので、そういう機会を増やしていくと良いのではないかな。</p> <p>また、自分が意見を出した内容や回答率が視覚的に見えるような仕組みがあると、子どもたちもゲーム感覚で答えたいくなるのではないかな。</p>
委員	<p>市報にQRコードを載せて、それをスマートフォンで読み込んで回答する形をとり、集計はフォームスというツールを使えば、円グラフ等で結果が表示され、回答した市民もアクセスすればそれを視覚的に共有できるので良いと思う。</p> <p>市のLINEのアカウントも活用できるのではないかな。ごみの分別や、窓口の混雑具合などの有益な情報がスマートフォンから簡単に得られて、市民としてはとても便利だと感じるので、情報収集のツールとして活用することができれば良いのではないかな。</p>
会長	次に、市の施策に対する匿名での意見についてどのように扱うかだが、匿名あるいは記名のメリットやデメリットについてはどうか。
委員	匿名のデメリットとしては、意見を投稿する人が特定されるというリスクがないため、いたずらなどの目的で書くこともできてしまうことだと思う。

委員	匿名のメリットは、記名に比べれば意見が多く集まるところである。一方で、他人の前で手を挙げて意見を言える方が、一般的には素晴らしいと思う人が多いと思う。匿名は真逆となるが、意見を聴いて施策に反映するという視点で考えれば、記名だと意見が集まりにくいデメリットがあるため、匿名という方法をとるしかないのではないのか。
会長	市としては記名と匿名の意見の扱いに違いはあるのか。
事務局	<p>大きな計画や施策の方向性を決める際はパブリックコメントにより意見を募ることとなっており、原則は記名である。ただ、記名がない意見だからといって排除することではなく、反映、あるいは参考意見として受け止め、反映できない場合はその理由を説明する等の対応をする。いただいた意見とそれに対しての対応については、一覧表にまとめ、公表している。</p> <p>また、子どもについてはパブリックコメントにより意見を言うことは難しいと思うので、市側から積極的に子どもの意見を聴けるところへ出向くことを考えている。本日各委員から出た意見を参考に検討していきたい。</p>
会長	最後に、子ども・若者からの意見を反映させられる施策はあるのか。
事務局	<p>過去に子ども施策において子ども・若者からの意見を反映したものとしては、悩みを抱えた子どもからの相談を受ける場所を整備する際に、子ども自身がどんな相談室だったら悩みを相談しやすいか、当時青少年センターの運営に参加している子どもたちから意見を聴いた。その結果、相談をする自分を友達に見られたくないという意見があったため、その趣旨を反映させるべく、落ち着いた静かな環境を整えたということがあった。</p> <p>意見をいただいて、大きな施設の整備など、すぐには実現できないこともあるが、意見のエッセンスをくみ取り、できるだけ施策に反映させたいと考えている。</p>
会長	子ども・若者から意見を聴く方法について、大切なのは信頼関係や環境づくり、あるいは意見の聴き方など、各委員からさまざまな意見をいただいた。事務局で整理して今後の施策の参考にしていただけたらと思う。また、各委員の所属する団体の活動の参考にさせていただければと思う。

3 情報交換・意見交換

なし